

第6回山ノ内町議会報告会実施結果報告書(北部)

日時	平成25年1月20日(日) 午後3時30分～5時30分まで
場所	北部公民館 (住民参加者数:40人) 議員 14人 事務局 1人
地元協力団体	須賀川区
議員役割分担表	<p>総括責任者 小林 克彦          司会進行 徳竹 栄子          常任委員会報告者              総務常任委員会 田中 篤              社会文教常任委員会 山本 良一              観光経済常任委員会 西 宗亮              広報常任委員会 渡辺 正男              議会活性化委員会 児玉 信治          記録者 布施谷 裕泉          出席議員 小淵 茂昭・小林 克彦・山本 一三・渡辺 正男・徳竹 栄子                    黒岩 浩一・山本 良一・児玉 信治・高山 祐一・布施谷 裕泉                    田中 篤・西 宗亮・望月 貞明・小根澤 弘                    (事務局一名)</p>
次第(担当者)	<p>1. 開 会 司会者          2. あいさつ              主催者 小淵 茂昭 議長              共催団体 石井 優 須賀川区長          3. 議員自己紹介          4. 報告事項              (1) 議会常任委員会等報告                  ①総務常任委員会                  ②社会文教常任委員会                  ③観光経済常任委員会                  ④広報常任委員会                  ⑤議会活性化研究会              (2) 懇談事項          5. 懇談事項              (1) 少子高齢化とどう向き合う          6. その他          7. 閉 会 司会者</p>
報告事項の質疑	<p>質問:活性化委員会の報告で定数削減と報酬カットは今後の検討課題であるのか、決った事なのか。報酬について決まっていることであればその根拠は何か。          回答:議員定数については昨年の3月議会に条例改正をして決定している。報酬減については、諸般の事情を鑑みて継続を決定しているという事です。</p> <p>質問:少子化・人口減対策として、先進地視察をどの様に活かすことができるのか。          回答:各常任委員会より説明              総務－防災体制、新エネルギー等について              社文－宮城県白石市の小規模特認校等について              観光－小谷村の廃屋に関する条例等について</p> <p>質問:当町として二大産業の観光と農業だけで生き延びていかれるのかどうか、という事が人口を考えるうえで大変大事である。          回答:大学生の就職率が75パーセントしかない現実もあり、これまでにない発想することも必要。たとえば教育そのものを町の産業とすること、また新エネルギーという事もある。</p> <p>質問:須賀川の少子高齢化を今になって問題にしていること自体が問題。農協支所廃止については議会でも、また地域としても問題にすべきだった。学校の問題も含めて文化の中心的なものが無くなる中で人口を増やそうなんて言うことは無理。今後こういった問題に対しては区長さんをはじめ、地域一丸となって対応すべき。</p>

懇談会意見

- 回答: 小学校の問題については、保護者の小規模に対する不安から始まっている。残すにしても保護者の理解を得られる教育ができるかどうかも含めて、これから議論が始まる事になる。
- 回答: 小学校の問題については、統合ありきではなくこれから検討していくことになる。
- 質問: 木島平村での保育園の再利用の記事があったが、北部の医師住宅の活用も含め空き家の活用を真剣に考えるべきではないか。
- 回答: 中須賀川の医師住宅については診療所確保のために、他に転用しないであえて残してあるという事があります。
- 質問: 結婚して地域に住みたいと思っても住む場所がない。若者定住の町民、町営住宅を是非建ててほしい。また小布施町では空き家を町で借り受けて利用しようとしているが、山ノ内町ももっと柔軟な発想をするべき。昨年も結婚して地元に住みたいと思っていたが結局なくて、町外に住んで、仕事に通ってきている若者もいる。
- 回答: 当町にも若者定住の助成があり結婚を機に町内に住むことにすれば、3年間で100万ほど支給されることになっている、是非利用して頂きたい。
- 回答: 空き家問題については須賀川の場合、持ち主がなかなか貸してくれないと担当が説明している。
- 回答: ご指摘のように今地元に住みたいと思っても、町営・町民住宅が空いてないというのは事実。しかしここまで大きくではないが、空き家の利活用に向けて動きも出始めている。その場合には維持管理も含めて、地域の協力体制が不可欠。ご協力いただきたい。
- 質問: 19年に神奈川から移り住んで、地元の皆さんに大変親切にさせていただいた。来て本当に良かったと思っている。また今は地震とかで海辺には住みたくないと思う人も多いはず、そんな人にも伝えられればいい。また過疎化は前からの問題であり、ここにおられる議員の皆さんは今まで何をやってきたのかといたい。我々に聞くのではなく、議員それぞれの思いをしっかりと述べるべき。
- 回答: 申し訳ありませんが議会としての考え方を中心に述べさせていただくことになっており、議員個人の考えを述べることは控えさせて頂いているのでご理解いただきたい。
- 質問: 学校問題とすれば孫にはやっぱり、ある程度の規模のところで学ばせたい。
- 質問: 北小の少人数は温かくていいと思うが、西小へ行ってみるとやっぱりこれぐらいいいればいいなと思う。それと老朽化が心配である。そのためにも町の税収増を図るべきでは。
- 回答: 税収だけ見れば他市町村と比べてもそんなに悪い方ではない。ただ滞納率の問題とか消費税の事で先が見えにくい状況もある。
- 回答: 教育を考えたとき、どんな教育がいいのかが大事になる。一つの例として白石市の場合、生徒と保護者の選択で9年間一人で授業を受けたという事もある。
- 質問: 小規模が悪いといっている訳ではないので、もう少し学校の環境にもお金をかけてほしい。
- 回答: どういう状況でという事もあるが、残すという事を選択した場合最善の支援をすることになるはず。町長も教育にはお金を惜しまないといっている。
- 回答: 参考までに南小と西小はWHOの指摘で、6学年で100名迄という規模に合致するからという意見もある。
- 回答: 教育は成果で考えるべきで、効率から考えるべきではない。
- 回答: 学校関係ではこの先3年間で960万ほどの予算がついており、北小においては体育館の屋根の修理が今年度の実施になっている。
- 回答: 12月議会で12人の議員が統廃合問題で質問に立っている。それぞれ議員の思いを含め内容を記している。25日に配布になるのでご覧ください。